

図工・美術学習指導研究委員会

一 研究テーマ

感性をはたらかせ、自分らしい表現を追究していく図工・美術の指導はどうあったらよいか
～地域との連携をめざして～

二 テーマ設定の理由

生き生きと表現活動をするには良い題材が必要となる。教科書に掲載されている題材はもちろんだが、子どもたちが暮らす地域、また、広く国内を見渡すと伝統的な工芸品、その地域に根付いている生活必需品、日々見ている風景など、図工美術の題材になるものがたくさんある。またその表現活動を支える指導者の力も必要になる。

そこで図工・美術学習指導研究委員会では、「地域との連携をめざして」として、地域に根ざした市立美術館の方とのつながりをつくるのが、生き生きと表現するための学習活動を支えるひとつになるのではないかととらえ、本テーマを設定し、地域資源を活用した学校の授業のあり方を実践的に考えることで研究を進める形とした。

三 研究の経過

- 第1回委員会 5月 7日（火）総委員会研究の方向について
- 第2回委員会 7月18日（木）教育課程研究協議会 午後の打ち合わせ①
- 第3回委員会 8月29日（木）教育課程研究協議会 午後の運営について
教育課程指導案について
午後の打ち合わせ②(上田市立美術館の方を迎えて)
- 第4回委員会 9月 5日（木）教育課程研究協議会 午後の研究協議:「傘の模様」
- 第5回委員会 11月28日（木）総委員会
- 第6回委員会 1月21日（火）研究発表会

四 研究の内容

- 1-① 美術の専門家である美術館学芸員の方の学校教育への参加について考える。(塩田中学校授業への参加の提案)
- 1-② 学芸員の方と先生方に実際に会っていただき、学芸員の方のワークショップを先生方に知っていただく(教育課程午後の研究協議時間の活用)
- 2 中学校では教科会が成立しないという現状を受け、題材研究を行う。(発表に向けて)

五 研究のまとめと課題

1 教育課程午後の部について

ワークショップ「傘の模様」

「いつも同じ色ばかり使ってしまう」「チューブから出した色ばかり」「混色をもっとできるようにしたい」など、色に関わる課題に向き合える短時間のワークショップをサントミュージゼの学芸員さんに紹介して頂いた。教育課程の午後の時間を使い、先生方には制作時間約1時間で実際に体験していただいた。



○体験会場が小学校と中学校の2教室に分かれていたので、それぞれのペースで制作できて良かった。

中学校の先生方は、普段一人で行っているので交流の場になった。

○小学校の先生の中には、図工が苦手と思っている先生もいる。基礎的な内容を扱う機会としていい。

●午前の授業と内容によっては、似た内容のワークショップにするといいかもしれない。1学期中に授業校と打ち合わせて検討したい。

- ・道具の使い方や、手入れの仕方を学ぶ機会があると嬉しい。(彫刻刀の研ぎ方など)
- ・同好会の研究と連携できないか。同好会で毎年購入しているものを使って制作するというのもありかもしれない。来年度、考えていきたい。

今年度は、昨年度に引き続きサントミュージゼの学芸員さんのワークショップを開くことができた。小学校の先生の中には「図工は苦手だ。」と話す人もいるが、近くに頼れる専門家がいることを知っていただければありがたいと思う。

2 授業実践研究

「立体表現の楽しさを感じながら取り組める題材について」

上田市立塩田中学校 羽田 光

1 題材名

「動きのある人物」（2学年）

2 題材設定の理由

中学2年生になり、先輩になったことや新しいクラスで生活することにワクワク感を持って生活している生徒が多くいた。日々の生活や学習活動、生徒会活動、部活動など新たな気持ちで取り組もうとする生徒が見られるようになった。美術の授業では1年時にまだ完成していなかったポスター制作が終わり、描くことではない活動に関心を高めているように感じた。

そこで、自分の取り組んでいることや生活を振り返り興味がある場面に着目をし、立体表現ができる題材として「動きのある人物」の題材を設定した。

本題材では表したい主題をもとに自分で動きのある写真を撮影し、その写真をもとに紙粘土で表現を行っていく。また、作品はさびカラーによって重厚な作品となり満足感が得られる作品になると考えた。

題材を通して、人物の形や動きの面白さに気付き、粘土による立体表現の楽しさを感じて欲しいと願って本題材を設定した。

3 題材の目標

表したい主題をもとに人物の骨格や関節・筋肉の動きなどを、紙粘土を使って工夫して表現することができる。

4 評価規準

- ① (ア) 動きのある人物を表すことに関心をもつことができる。(関心・意欲・態度)
- ② (イ) 主題が伝わるようにポーズを工夫して構想することができる。(発想・構想)
- ③ (ウ) 人物の骨格や関節・筋肉の動きを、紙粘土を使って工夫して表現することができる。
- ④ (エ) 友の作品から表している動きや人物表現の形の美しさを表そうとする工夫などからよさを感じて言葉にすることができる。(鑑賞)

5 題材展開 (全 10 時間)

過程	学習活動	教師の指導・援助	評価規準	時間
構想	1 生活の中の色々な瞬間を振り返り、ポーズからどんなことを表したいか考え、主題を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・示範作品を紹介し、表している瞬間、表したいことは何かを考える。 ・生活の色々な瞬間を振り返り、どのような瞬間があるかを挙げる。発表を行い、自分の主題を決めていく。 	① ②	1
	題材の学習問題：ポーズや動きを工夫して思いを表すにはどうしたらよいだらう。			
	2 カメラで表したい人物の動きの写真を撮る。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に決めた瞬間をもとに前、後ろ、右、左の4ポーズをカメラで撮影する。 ・全身を制作するので上半身のアップではなく全身が入るように伝える。 ・用意できないものなどは見立てなどを行い写真を撮影する。 	①②	1
表現	3 人物の写真に関節や骨組みのラインを引き骨組みを作る。写真を基に粘土の骨組みをつくり、土台に接着する。	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影した写真を印刷し、写真に背骨や関節に沿って骨格のラインを引く。 ・骨組みのセットを配り、ポーズがつかれる状態にする。腰骨をひねり上半身と下半身をつくるのが難しいので間を空けずにひねることを伝える。 ・写真をもとに骨組みのポーズを作っていく。写真と骨組みのポーズを比べて、一つの面ずつ調節していく。 ・できあがったポーズが見やすいように土台へ接着する。 	②③	2
	4 骨組みに粘土をつけて制作していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・始めに全身にあらづけをし、でこぼこが消える程度に薄くつけていくことを伝える。 ・あらづけが終わったら筋肉の資料をもとに足や腕の膨らみを強調してつけていく。 ・手足や服、顔の作り方を確認し、写真を比較しながら粘土をつけていくことを伝える。 ・イスや机、ラケットなどの小物は針金や破材を使って大まかにつくってから粘土をつけることを伝える。 	②③	4
	5 できあがった作品にさびカラーを塗り仕上げをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・できあがった作品を十分に乾燥させ、さびカラーを塗ることを伝える。 ・金属塗料と発色液の2回を塗ってから塗れたタオルでさびを拭き取り、金属部分とさびの部分好みで残すように伝える。 	③	1
鑑賞	6 まとめ・鑑賞 友の作品を鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友の作品を鑑賞して、表したい動きを表現するためにどんなことを工夫したのか、人物表現のもつ形の美しさがどんなところから表れているかなどに注目して感じたことや、考えたことを記入する。 	④	1

6 生徒作品



7 成果と課題

○成果

- ・小学校のときに将来の自分をつくるという題材で粘土による人物表現は行っていたが、生活の瞬間を表すというテーマになったことで新たに人物表現に関心をもって取り組む姿があった。
- ・ポーズの写真を撮る場面では、自分の動きにこだわり撮影をする姿があった。
- ・部活に入っている生徒は、入っている部活の中での動きに注目する生徒が多く、身近な動きに注目して楽しみながら取り組む姿があった。
- ・体の形や、服などを立体で表すことに難しさを感じながらも納得のいくまで形にしようと意欲を出す姿があった。
- ・さびカラーで仕上げることで作品に重厚感ができ、どの作品も一定に仕上がることで嬉しそうな表情をする姿があった。

●課題

- ・粘土に入るまでの時間がかかり、制作の部分が少なくなってしまう十分に作り込む時間が確保できない部分もあった。
- ・顔や手の形などにもじっくり時間を掛けて制作をしたかったが題材設定の時間上省略してしまった。そのため、作り方を説明して次はこの部分と決まった形で進むことになりややマンネリ化してしまった。
- ・粘土を多く付けることにためらいを感じ、あらづけから筋肉や服をつくるころまでなかなか進まないことがあった。

↓

- ・人物表現の題材でどのような題材展開や時間の設定を行うことができるか。
- ・より簡単に、的確に形をつくる方法を伝える方法を探していきたい。
- ・鑑賞の場面で、より生徒の主題や思いが伝わり関わり合いができる鑑賞の仕方とは。

「和の文様 ～もらって嬉しいポチ袋～」

上田市立丸子中学校 瓜生 まどか

1 題材名 「和の文様 ～もらって嬉しいポチ袋～」(1年)

2 題材設定の理由

美術科の評価で、主題を重視するようになっている。しかし、自分の思いや願いを持つこと、他の人にも伝わるように制作することを苦手としている生徒も多にいる。日本に伝わる文様には、子どもの成長を願う「麻の葉」、健康長寿を願う「亀甲」、おめでたいことがある時には吉祥文様の「青海波」「七宝」など、シンプルな形に願いを込めて表すものが多くある。最近では、オリンピックのエンブレムに「市松」文様、陸上の日本代表ユニフォームに「鱗」文様が使われている。それぞれに込められた願いを参考に、新年に向けて、自分の願いを表現できるのではないかと考え本題材を設定した。

3 題材の目標

日本に伝わる文様の意味を知り、新年に向けての自分の願いをポチ袋にデザインすることができる

4 評価規準

【関心・意欲・態度】和の文様に関心を持ち、

【発想・構想】自分の願いに合うように、文様を組み合わせでデザインを考えることができる。

【技能・知識】選択した文様を規則的に描くことができる。

絵の具でムラなく、はみ出さずに着色できる。

文様の名称を覚え、文様の意味を理解することができる。

【鑑賞】ポチ袋を鑑賞し、作品から作者の願いを感じ取ることができる。

5 題材展開 (全 10 時間)

1 導入	1 H	文様に挑戦：試しに文様を3つ描いてみよう
2 アイデアスケッチ	1 H	アイデアスケッチ：願いを込めてデザインしよう
3 試作	1 H	試作・組み立て：色鉛筆で試作しよう
4 改良	1 H	改良・設計：試作を改良してデザインしよう
5 着色	3 H	着色：前作よりも着色の技能を向上させよう
6 量産	1 H	プリンターで量産：仕上がりを確かめよう
7 まとめ	1 H	まとめ：振り返ってまとめよう
8 鑑賞	1 H	鑑賞：ポチ袋から願いを読み取ろう

6 生徒作品



「願いが叶いますように」
コンクール優勝の願いを、チームのロゴに使われている文様を使って表した。



「明るく楽しく生きよう」
赤が頑張ろう！黄色が明るく楽しく！
紫は辛い悔しいという意味。辛い時があっても明るく楽しく頑張ろう!!



「ポチ袋」
自分の人生が明るくブレずに正しい道に進み、強い気持ちで何事にもチャレンジするという気持ちを込めた。



「和風なポチ袋」
唐草には植物のように雨や風に耐えてたくましくなりたい、鱗は困難を乗り越えていきたいという願いを込めた。

7 成果と課題

- 資料集 P136 に掲載されている 12 の文様を使用するという基本条件からスタートするので、自分のアイデアを持つことに抵抗がある生徒も取りかかりやすい。同じ文様でも大きさや配色を工夫することで、独自のデザインを考える面白さも味わえる。
- デザインに込める願いと文様の色と形の関係を他の題材へ生かすこともできそう。
- 1年生の後半に取り組むことで、着色技能の向上へ意識を向けることができる。
- 願いを持って制作に取り組むことを苦手としている生徒も多くいるので、制作を繰り返す中で感覚を掴み、社会の中にある作品へ目を向けることができるようになってほしい。そのための展開を考えていきたい。

六 図工・美術学習指導研究委員

上野 勝裕校長先生（川辺小）	村田 里見先生（川西小）
羽田 光先生（塩田中）	大嵩崎眞一先生（青木小）
池田 淳子先生（本原小）	瓜生まどか（丸子中）